

健康福祉サービス第三者評価結果 公表 共通様式

1 事業者情報

福祉サービスの種別	保育
事業所名	レイモンド淡海保育園
代表者氏名（管理者）	園長 平良 嘉男
法人名	社会福祉法人 檸檬会
定員（利用人数）	70名（70名）
施設・事業所所在地	滋賀県大津市菅野浦2-1
T E L	<b>077-572-6762</b>
F A X	<b>077-572-6763</b>
電子メール	<a href="mailto:yoshio.t@lemonkai.or.jp">yoshio.t@lemonkai.or.jp</a>
ホームページアドレス	<a href="http://www.lemonkai.or.jp">www.lemonkai.or.jp</a>

2 第三者評価機関

第三者評価機関名	ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター
評価実施期間	令和3年1月6日（訪問調査）と1月8日（オンライン調査）

## ○ 総合評価

社会福祉法人檸檬会は、全国に58の保育園・こども園を、滋賀県内でも5保育園・3こども園を運営している。同法人は「ソーシャルイノベーション」という表現で、保育を中心に、学童保育、就労移行支援事業を通じて、より多くの方と幸せを分かち合える社会づくりを目指している。

平成22年4月1日にスタートした「レイモンド淡海保育園」は琵琶湖畔に立ち並ぶビルの1～2階に位置している。当法人は保育サービスの質向上を目指して第三者評価調査を5年ごとに受審されており、当園も6年前に第1回目の受審をされ、本来であれば1昨年6月に実施予定であったが、誠に残念な大交通事故が5月8日に発生した。

5月10日には保護者役員会の皆さんへ第三者評価調査の説明会を開く予定であったので弊調査機関にとっても忘れられない事となった。事故発生当日午後6時のNHKニュースで和歌山の本部から理事長、副理事長と本園の園長が出席して記者会見が行われ理事長と号泣する園長との状況説明とお詫びで、同法人の真摯な対応が、多くの一般市民に伝わり、このような事故が二度と発生しない様念じた事故現場となり、大津市、滋賀県、そして全国的にも道路上の危険区域がチェックされ補強されてゆくスタートとなった。

厳しい一年間を経過する中での第三者評価調査2回目の受審に対して、敬意を表したい。

園の保育理念は

「私たちは、全ての子どもに対し、短期的な結果を求めず、生涯消える事の無い“生きる力”  
「3つの心」を育てたいと思っています。」

3つの心「人・命を愛する心」「自然と共に生きる心」「想像(創造)する心」を育てることと定め、新任の園長以下全職員が実践に努めて、保育の質向上に向かって、法人本部の指導の下、情報やアイデアを共有し前進している保育園である。

## ○ 特に評価の高い点

### 1、伝統的な保育方針

子どもの自主性を大切にしたコーナー保育に取り組み、子どもたちが自分で自主的に遊びを選べる環境づくりを行い、一斉ではなく子どもが主体的に生活を進めるようにさりげなく支援している。自分で考え、参加した事から「なんだろう」「どうしてだろう」「やってみよう」「なんだろうのその先へ」とつながる保育を進めている。

コーナー保育時を捉えて異年齢園児の交流機会を作り、小さい子を思いやる心を育て、年上のお兄さんお姉さんから、色々教わる事も多く年長への憧れの心が育っている。年上の園児が年下の園児に対する思いやりや指導を、年下の園児は年長の園児に対する尊敬のおもいと将来の姿を描かせる異年齢保育を実践している。

これを可能にしているベースとして、70名の定員を各クラス12～3名で構成されており、一人ひとり、きめ細やかな対応が出来ている。

また、子どもたちが、わくわくする英語・体操あそび・5歳児の茶道を専門講師の指導の下実施し、経験を通して個々の力を引き出す取り組みをしている。中でも茶道を通して文化・伝統を楽しみながら所作や思いやりの心を学ぶ場として活用されている。

### 2、育児担当制を取り入れた保育について

育児担当制を採り入れ、愛着関係を築く事を土台とし基本的な生活習慣が身につく保育を実践している。保護者とは、連絡帳や日頃のコミュニケーションを通じて連携を密にし成長を共に喜んでいる。担当保育士間での技能伝達が上手く行われていて、先輩保育士のリードが光っている。子ども達のスタートは、大変恵まれており、保護者との絆も強く結ばれている。

### 3, 障がい児の保育について

一人ひとり異なっていていいんだ、皆お友達なのだからということが行きわたっている。子ども達は自然な形で一緒に活動し、気が進まないんだと感じた時は誰も無理強いする事なく受け入れている。

障がいのある子を他の園児・保護者が受け入れ、一人ひとりに寄り添った保育を行っている。どの園児にもいたわりと思いやりの心を養う保育を行っている姿を「運動を楽しむ日」に参観し、それを目の当たりに眺めることができた。

### 4, 食育について

栄養士・調理師が協力し、毎日3人体制で成長過程に合った栄養・バランスを考慮したメニューを提供している。子どもが分かりやすいように食品を赤(主菜、肉・魚)・黄(主食、米・麺類)・緑(野菜や果物)に区分し3色食品群を基本に、**食育ボード**で毎日のメニューを説明しバランスよく食べる取組を行っている。毎月献立表を保護者にも配布し、喫食状況を連絡帳・送迎時やアプリで知らせている。

幼児組では お腹が空いた子から席を決めず順次に好きな場所に座り食事ができる様、ランチルーム形式を取り入れた昼食スタイルにしている。「先生お代わり」があちこちで聞こえ、早い子遅い子それぞれのペースで食事をし、食べ終わった子は食器を片づけている。保護者からも食育について高い評価を得ている。

## ○ 改善を求められる点

### 1, 園外遊びについて

事故後さらにコロナ禍が加わって、以前のように活発な園外活動ができなくなっている。保護者アンケートでも出来るだけ園外での遊びが可能になり心身の発達を促してほしいという多数の声が上がっている。自然環境に恵まれた地域であり、外気に触れ自然の移り変わりを肌身で感じる外遊びの機会を持つ様工夫して取り組んで欲しい。

### 2, 地域高齢者や住民との関係づくりについて

民生児童委員との定期的な話し合いを実現させ、協力を得つつ地域住民や特に高齢者との関係づくりとボランティア提供が得られる関係づくりに取り組んでもらいたい。

コロナ禍の結果中断している関係先にも、再び元の何らかの関係が実現する様オンラインでの連絡利用で前進してほしい。

### 3, 保育士の仕事環境改善について

皆熱心な保育士の集合体で運営している。廊下でパソコンを使用している姿が見られるが、職員休憩室の隣等整理整頓を徹底し、仕事環境の改善を出来るところから実施してほしい。保管庫の整理などもうまくすれば利用できる面積が出てくる可能性も考えられる。

#### 4, 中長期目標策定について

これからの地域状況は、リモートワーク等いろいろの要素で変化が激しくなることが予想される。全国展開されている貴法人であることから、本部中心に各園に対しての中長期目標設定の早期実現を期待したい。

#### 4、 第三者評価結果に対する事業者のコメント

第三者評価機関に、本園の保育理念や保育方針、保育内容（コーナー保育やつながる保育等）を評価して頂いた事を喜んでいきます。

障がい児保育については、今後とも全職員で共通理解を深めながら関わっていく体制を敷いてまいります。

また、食育については今年度はコロナ禍の中で出来なかったクッキング等に取り組みながら保育指針で謳われている「食を営む力」を育てていく計画です。

改善点で指摘のあった、園外遊びについては、園児や職員、保護者がいまだに抱えている事故のトラウマを勘案しながら慎重に進めていきたいと思っています。

地域高齢者や住民との関係づくりについては、コロナ禍にあって求められている新たな生活様式（オンライン等）での可能性を検討したいと思っています。

休憩時間で職員が廊下で行っているPC作業については、ご指摘の通り職場の物的な環境を整理する必要があるとともに、人材不足でゆとりのない現状を改善するよう努めてまいります。

さらに、良い仕事をするために休憩時間を確保する必要がある等、職員の啓発にも取り組む必要も感じております。

終わりに、第三者評価を通して客観的に園の在り方を理解することができたことを感謝申し上げます。大人社会が見守り育てていかなければならない子どもたちの未来が豊かなものになるよう祈りつつ感謝を申し上げます。